

第54回 子ども話し方大会



11月3日、市民図書館で第54回子ども話し方大会がありました。これは、市子ども会連合会が『美しいことばと豊かな心を育てる青少年の集い』をテーマに毎年開催しているもので、各町・地区子ども会から29人（小学生15人、中学生14人）が参加しました。子どもたちは、新型コロナウイルス感染症の影響による環境の変化で感じたことやクラブ活動で学んだことなどについて、体験を通じた自分の考えを力強く発表しました。

中学生の部

『音楽と共に』

大坪地区子ども会

山嶺 心花 さん (伊万里中3年)

最優秀賞

小学生の部

『自分らしくあるために』

大坪地区子ども会

前原 太郎 さん (大坪小6年)



↑左から山嶺さん、松本さん、小林さん、津田さん



↑左から前原さん、牟田さん、鷹取さん、岩本さん、杉原さん

- ▽『夢を叶えるために』
波多津町子ども会
津田 彩吹 さん
(青嶺中3年)
- ▽『聴こえないから
気付いたこと』
松浦町子ども会
山口 友花 さん
(東陵中3年)
- ▽『自分を愛えたい』
伊万里地区子ども会
小林 依奈 さん
(啓成中3年)
- ▽『私を見つめ直すこと』
黒川町子ども会
松本 紬 さん
(青嶺中3年)

- ▽『好きを描いて
生きていく』
黒川町子ども会
牟田 恋菜 さん
(黒川小6年)
- ▽『運動会を終えて』
大川町子ども会
鷹取 伶奈 さん
(大川小6年)
- ▽『ちがいをこえた
その先に』
立花地区子ども会
岩本 惺良 さん
(立花小6年)
- ▽『日本舞踊が教えて
くれたこと』
東山代町子ども会
杉原 慧祐 さん
(東山代小6年)

編集室から

4月の機構改革に伴い編集室の場所が変わって約8か月がたち、外の景色も変わりました。仕事柄、編集作業で目を酷使するのでなるべく外を眺めるようにしています。席から『伊万里富士』が見えるのですが、日によって表情が変わるのです。はつきりと見える日もあれば、白く霞んで見える日もあります。場所が変わって気付いたことです。さて、2020年も残り1か月。今年は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが次々と中止となり、通常の紙面作成ができない…。それをチャンスと捉えるか、不幸と捉えるか。第3波到来でコロナ収束への道が霞む中、新しい状況に順応する大切さを学んだ気がします。今年もさまざまな気付きや学びがありました。皆さんはどのような年でしたか。(智)



人の動き

令和2年 11月1日現在

●人口	54,019人	(- 47)
●男	26,155人	(- 26)
●女	27,864人	(- 21)
●世帯	23,489世帯	(- 20)
	()	は前月比

この冊子は、1部当たり約35円で作成しています(人件費など間接経費は含まれていません)。また、企業広告による掲載料は、広報伊万里の作成費の貴重な財源となっています。

- 発行日/令和2年 12月1日
- 発行編集/伊万里市情報政策課シティプロモーション推進室 ☎(0955)23-4313 (直通) 〒848-8501 佐賀県伊万里市立花町1355番地1
- 伊万里市のホームページ <https://www.city.imari.saga.jp/> ●印刷/山口印刷株式会社